

地質調査技士に合格して

旭ボーリング（株） 阿部 政治



今回、地質調査技士の合格通知を頂いた時、飛び上がるほど嬉しく思いました。3度目の挑戦で、ようやく合格する事が出来ました。

私の会社では、試験の1ヶ月前から、仕事が終わった後に部長が講師となり勉強会を開いてくれます。

地質調査技士試験の出題範囲は、とても広くテキストや過去問題を見ても難しく、はじめのうちは理解できないものが、多くありました。

例えば、ルジオンテストや天気図の事は、それまで、見た事も聞いた事もなかったからです。

それでも、社内の勉強会では、噛み砕いて解るまで教えてもらえたので、徐々に理解できるようになりました。

試験当日は、勉強会のおかげで、過去問題に類似した問題は、比較的簡単に解く事が出来ました。

しかし、過去問題とは全く違う問題は、自分の知識や経験から、振り絞って何とか解答したものの、答え合わせをするまで、自信が持てませんでした。

筆記試験終了後、自分で答え合わせをして、少し手ごたえを感じました。

次の面接もかなり不安でしたが、ここまできたからには、自信をもって普段通りの自分を出そうと、面接に挑みました。すべての事はやりきりました。

合格発表当日、会社から「合格したよ。」と、電話をもらいましたが、自分の目で確認するまでは不安で、仕事が終わって会社に戻り協会のホームページで確認し、そこに自分の番号を見つけて、本当に良かったと思えました。

今回、私の会社からは、「現場技術・現場調査部門」で、3名が合格する事が出来ました。

私が合格する事が出来たのは、講習会での講師のアドバイス、日常業務での会社の先輩等のご指導、仕事が終わってからの部長の勉強会、そして何度も受験させてくれた社長のおかげです。私ひとりでは、何年経っても試験に合格する事は出来なかったでしょう…。

本当に、お世話になった方々に、感謝いたします。ありがとうございました。

これからは、自分の仕事の成果はもちろんのこと、失敗も、地質調査技士としての評価を受けることになるので、今まで以上に努力と勉強を続けていかなければならないと考えています。

公共事業の入札条件では地質調査技士の資格を有する者となっていることもあるので、この資格で発注者に満足して頂ける仕事を心掛け、学んだことをフォアマンとして現場に活かしていきたいと思えます。

国土防災技術（株）福島支店 酒井 由美



現在、地すべりの調査及び設計業務に主に携わっていますが、学生時代から土壌汚染に興味があったため、今回地質調査技士「土壌・地下水汚染部門」を受験することにしました。

受験対策として、まず気になったのは土壌汚染対策法がH22.4.1に改正されたことでした。改正内容をすべて解読することは困難なので、東北地質調査業協会主催の事前講習会に申し込むことにしましたが、受験者が少ないとのことで開催されていませんでした。そのため、e-learningに登録し、これを基に改正法のポイントをつかみました。

次に不安だったのが、記述式問題でした。土壌汚染に興味はあるものの、実際の業務として携わったことがあるのはほんのわずか…。試験までに業務経験を急激に増やすことはできないので、今ある知識を基にとにかく過去問の記述式問題を解いてみました。一度文章として整理

してみると、自分に足りない知識が見えてくるので、それを補ってまた文章にしてみる…という作業の繰り返しを何度か行いました。また、経験論文は事前に用意することが出来たので、事前に上司に添削してもらい、それを試験日まで繰り返し書いて覚えました。

その他地質調査分野については、過去門をまず解いて知らない事を覚えていきました。

実際の試験では電子納品や、第3紀層と第4紀層の境界年代等最新の事柄についての問題もありましたが、業務で扱っていたこともあり何とか回答することができました。

正直、土壌汚染の知識についてはまだ業務で活用することは少ないと思いますが、今回の試験対策で得た知識を基に、今後さらに様々な業務に携われていければと思います。